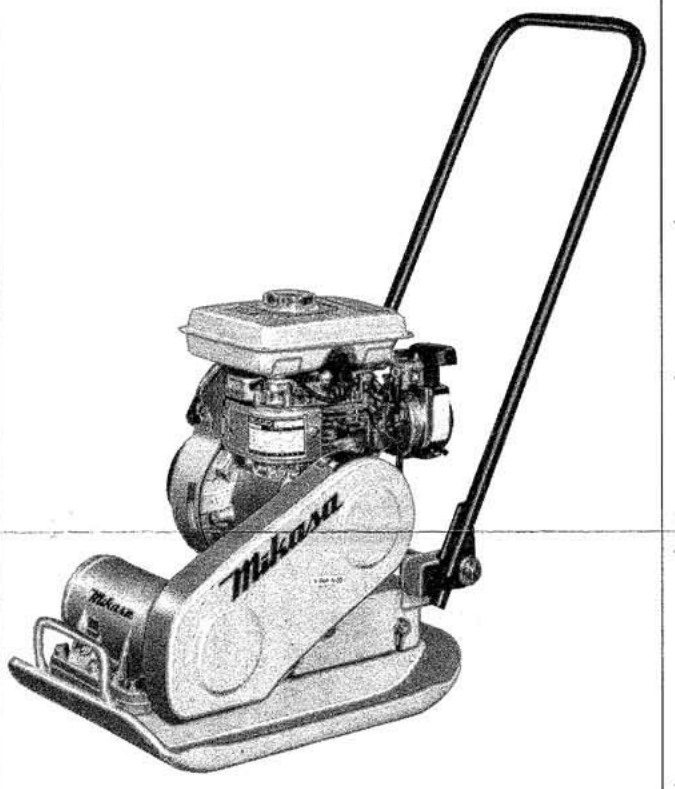
三笠ニュース

発行所
東京都千代田区猿楽町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京(292)1411 大代表
テレックス 222～4607
郵便番号 101
PR旬報 年4回発行

プレートコンパクター MVC-60型 能率アップで新登場



いわゆる軽量型といわれる五〇キロクラスのプレートコンパクターを日本で最初に開発したのは三笠産業でした。まだまだ自重の大きなコンパクターが主流の頃で、軽いものでも七〇キロから八〇キロありました。当時五〇キロクラスのプレートコンパクターは、はたしてユーザーのニーズに合うかという疑問もありましたが、現実には、プレートは転圧力よりも表面の締固め仕上げに用いられるので、MVC－52型として発売された三笠のプレートコンパクターは、軽量小型で取りまわしが楽、仕上がりが良い等の特徴が受け入れられて好評を博し、プレートコンパクターのベストセラーとなっております。また最近では、作業者の高齢化とも相俟って取り回しの楽な五〇キロクラスがプレートコンパクターの主流になっているようです。三笠でもこの時代のニーズに応え、更に軽量小型のMVC－40T／F型の四〇キロクラスのプレートコンパクターも発売しております。

アスファルト仕上は、その合材の調合により、硬質のものから軟質のものと幅が広く、地域、気候によっても異なり、それに従って単にプレートといっても様々な仕様があります。当社では仕上げ用では四四キロのMVC－40型から一一八キロのMVC－110型までのプレートコンパクターを製造販売し、転圧力を必要とする作業にはバイブロコンパクターを用意し、九〇キロから二六〇キロまでの各機種があります。

今回発表致しましたMVC－60型は、乾燥重量五八キロ。これまでのMVC－52H型よりも走行速度を上げて、作業性や能率を上げるように設計されています。作業する場所や条件にもよりますが、毎分二〇から二五メートル、即ち一時間に四二〇平米から五二五平米の作業が行えます。

アスファルト作業に欠かせない散水装置も大型の水タンク及び一点吊りフックとセットでオプションとして用意されており、また水タンクの重量による作業速度のダウンも極力押えるようにしています。

転圧盤の角は大きなRをとり、壁際の作業のときに壁面を傷付けないようになっています。全体を低重心にし、バランスの見直しもしたのでハンドルを真上まで回してのピボットターンもやりやすく、操作もきわめて軽快になりました。また大型のショックアブソーバーを採用して手許への振動を大幅に減らしております。その他ベルトカバーを丈夫な鋼板プレス製にし、石などの異物の入りにくい構造にするなど、ますます使いやすいプレートコンパクターとなっております。MVC－60型を是非ご使用下さい。

仕様

型式		MVC－60
装備重量		60kg
寸法	長	825mm
	全幅	350mm
	全高	890mm
	全高さ（ハンドル含まず）	510mm
転圧盤	長さ	510mm
	〃 幅	350mm
振動	数	5600vpm
	力	1030kg
遠心	速度	20～25m/min
走行		ロビンEY15D
エンジン	最大出力	3.5ps/4000rpm

年頭の辞

取締役社長
京谷 達也

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は皆々様にはひとかたならぬご愛顧お引立てをいただき厚くお礼申し上げます。

さて本年は益々の躍進を象徴するウマ年であり、一九九〇年代の節目を迎えて新出発の年でもあります。心の緊張とでも申しましょうか、仕事のうえにもまた人間性のうえにも清々しい心意気で決意も新たに歩むことは実に喜ばしいことであり、誠にご同慶の至りでございます。

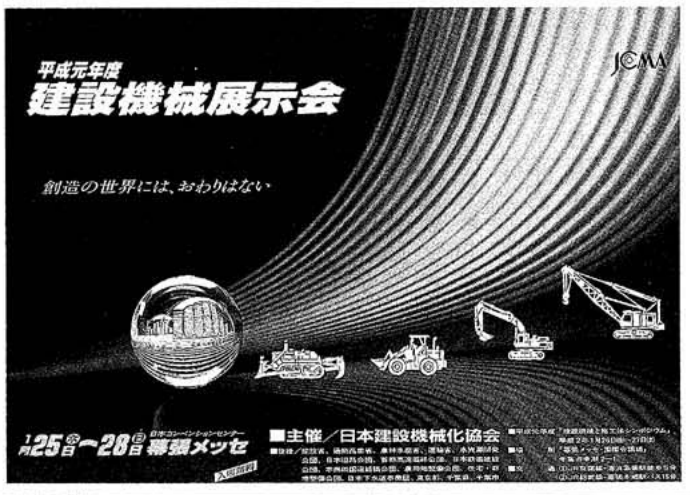
皆々様がたの大きなお力添えをもちまして、当社の製品は世界的水準を行くものとしてご好評をいただき感激いたしております。本年は尚一層この感激を新たなものにして、皆々様のご要望にお応えし発展いたす覚悟でございますのでどうぞよろしくお願い申しあげます。元号が昭和から平成に移りアジアや東欧の国々からは地鳴りのような胎動が聞え、やがて激動の新時代が目前に迫っております。しかしその日が来ましても、われらの三笠はそれを乗り切るのに充分な自信をもちまして一歩一歩堅実な歩みを進めて参る所存でございます。

昨春、西ドイツのミュンヘン市で開催されましたバーマ展では、世界の建設機械もここまで進歩していたのか！の驚きを痛感いたしました。バーマ'86の時に展示された製品とは比べものにならぬハイテク化が見られたのであります。しかしそれらの中にありましても三笠商品は絶大なる信頼を得ておりました。

地味ではあってもこうした堅実主義と信頼をこそ第一のモットーに〝三笠の建機〟そして〝建機の三笠〟を推進させて参ります。アメリカに於ける三笠の総代理店でありますマルティクィップ社が世界最大のパワートロウエル専門メーカーを吸収し、これにともない三笠産業が日本及び東南アジアでの同製品の総代理店となりましたが、こうした三笠のネットワークも高い信頼から生じたものと確信いたしております。

新しくはじまった一九九〇年代。三笠は次のステップを目ざして生産体制を見直し、斬新な技術の導入に拍車をかける所存でございますのでどうぞ本年は一層のご愛顧とご支援を賜りますようお願い申しあげます。

平成元年度
建設機械展示会開催
平成２年１月25日(木)～28日(日)
幕張メッセにて開催
三笠産業は主要製品を出展いたします



株式会社タテイシ建機リース
横須賀市佐原一―十四―六

立石文夫社長

春原幸雄社長

横浜ベイブリッジの開通や、みなとみらい（ＭＭ）21計画の進行など、なにかと賑やかな横浜市の南、三浦半島の中心横須賀市に、三笠の有力な代理店であり、また三笠レンタル会の会員でもあるタテイシ建機リースさんがあります。

気候の温暖な三浦半島には三浦海岸や葉山御用邸、マリンスポーツブームでますます人気の高い葉山マリーナや佐島マリーナなど有名なマリーナがあり、首都圏の高級リゾート地として非常に人気の高いエリアでもあります。

タテイシ建機リースさんは創業十二年、従業員二十九名で、建設機械のリースを始め現場ハウス、足場、ベルコン、仮設トイレなど、多様なリース機を保有され、地元三浦半島全域は言うにおよばず、横浜・横須賀道路などの道路網をフルに活用して横浜や川崎付近もその営業エリアとし、三笠製品の普及にも大変ご協力をいただいております。

立石社長はこのリース業界ではや二十数年というベテランで、毎年三笠製品を始め他社に無い新製品を逸早くリース機として導入され、ユーザーさんからも大変好評を得ています。またアフターサービスに関しても、サービスカーが毎日現場を巡回し、オイルの補充やグリスアップなどきめ細かなサービスを心掛けておられるほか、修理工場では草刈機から重機までなんでも修理できる体制を整えられ、ユーザーさんから絶大な信頼を得ています。

また佐原の本社は二年ほど前にディスカウントショップに改装され、奥様の和子さま自らお店にでられ、こちらもおおいに繁盛しております。毎月のセール期間には電機製品始めゴルフ用品等が大変安く販売されております。

立石社長の趣味はゴルフ、阿波踊り、ボクシングと非常に多彩。酒の飲み方も非常に豪快で、一緒にいるとスカッとする人です。またタテイシ建機リースさんは社員の皆さんも非常に活発な方が多く、休日にはゴルフコンペ、ボーリング大会、釣り大会など、毎月いろいろなイベントを企画され、仕事はもちろん余暇も十分活用され、毎日生き生きと仕事に取り組んでおられます。

今後とも末永いお付き合いをお願いすると共に、立石社長始め社員ご一同さまのますますのご健勝を心からお祈り申し上げます。

向成記

滋野自動車株式会社
長野県小県郡東部町滋野乙一五八九

昔から日本の屋根といわれる山国信州信濃の国は、山脈と山脈との間に発生した川と盆地によって、千曲川上流の東信、松本平の中信、善光寺平の北信、天竜川の南信とに大きく分けられ、気候的にも地域差が大きい。長野県は雪国と思われがちだが東信は年間降水量一〇〇〇ミリ以下で、わが国有数の寡雨地域となっている。そんなさわやかな東信地区を軽井沢、小諸から国道一八号線を上田方面に向うと菅平有料道路入口の一つ先の信号の近くにパワーショベル等の重機が豊富にならべられた滋野自動車さんの置場と本社・整備工場が大きく見えて来る。滋野自動車さんのある東部町滋野は荘園時代からの名豪族、滋野氏ゆかりの地であり、木曽義仲が挙兵し、小県の依田城に出て滋野氏の協力を得て兵を強化したといわれている。

滋野自動車さんは春原幸雄社長さんの陣頭指揮の下、販売、サービス、リースを三本柱に昭和四十一年創業、昭和五十六年には佐久営業所、翌昭和五十七年には上田営業所を立て続けに開設され、事業の拡大を図られた。

春原社長さんはお客様のお役に立つことを常に心掛けられ、お客様のニーズに合わせて、作業効率を高める為の優れた信頼される製品を数多く販売・リースされ、「お客様のご要望に適う製品が滋野自動車に必ず在ります。」をモットーに営業展開されて、豊富な技術と経験にうらうちされたキメ細い心のこもったサービスを実施されており、社員の皆様は一致団結して、明るく、活々と仕事に従事され、会社を訪れるお客様と事務所でなごやかに談笑されている様子を拝見していると春原社長さんのお人柄が窺える。

三笠製品も高周波バイブレーター、ＦＷ―335三役ゼネレーター、軽便・電直バイブレーター、ＭＶＣ―52Ｈプレート、ＭＶＣ―65プレート、ＭＴ―50Ｖランマー、ＭＲ―6ＤＡローラー、ＭＣＤ―04カッター、ＡＰ―90エアハンマーまで各種多数納入させて頂いている。

毎年十月初旬の土曜・日曜には滋野祭が開催される。これは単なる展示即売会ではなく、日頃の感謝を込めて掛値なしの大奉仕であり、お客様も毎年この日を楽しみに期待されて好評であり、相互の信頼関係が頼もしく感じられる。

長野県は冬期オリンピック誘致や二十一世紀の夢をのせた都市再開発が目白押しに計画されています。滋野自動車さんの今後益々のご発展と三笠産業との連帯の輪が更に大きくなることを期待すると共に、社長様と社員の皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

小林記

ウィークエンド インソウル 2泊3日

ソウル名物の屋台〝酒幕〟にて

さて、ぼくの場合、このローレックスの針が止まる度にソウルを想いだしており…

❋　❋　❋

三笠親和会で我々がソウルへ二泊三日の旅に出たのは、十月も半ばを過ぎており、市内は晩秋の装いを見せていた。ホテルから見える南山の麓を日毎に紅葉が進んでいるのがはっきり分かるほどであり、景福宮や秘苑といった古宮も、始まりかけた紅葉とその静かな佇まいが、秋の風情を醸しだしていた。

❋　❋　❋

今回の旅行は、自由行動という、気ままなようでかえって難しい課題を与えられたせいか、結果として社員の胸の内に、自分だけのソウルを持ちかえることになった。

❋　❋　❋

自由の橋で、韓国人の「北」への思いを肌で感じた人がいるかとおもえば、民族村オプショナルツアーに参加したものの、欧米人と現地韓国人とのツアーの中で、全く言葉が通じず、そのおかげで目と手、そして〈心〉で話すコツを見つけた人もいる。テーブル狭しと並べられた宮廷料理に本当のグルメを堪能した人もいれば、ウォーカーヒルでひとやま当てようと出かけて行くには行ったが、帰りの屋台で一〇〇〇ウォン（約二〇〇円）のうどんを食べながら、やっぱりこれがソウルなんだよ、と複雑な笑いを見せていた人もいた。そして、本物、偽物入れ混ぜてのショッピングに御執心だった人も。

❋　❋　❋

あのスモッグで霞んで見えたソウルの街の中に、我々は何かを発見できたのだろうか？。無愛想のようで意外と親切だった食堂のおやじさん、その心踊るビビンバの味！、ホテルの前から乗ったタクシーのオジサン、やっぱり一万ウォンは高いよ！（メーターを倒さないんだもの）。そして、じっとぼくを見つめているようで、そのはるか向こうを凝視していた地下鉄のおばあちゃん、あなたのソウルとは？、あなたの日本とは？。

❋　❋　❋

ところで南大門市場のおばちゃん、頼むから猫は食用で売らないでよ、おねがいだから！

藤岡記

WORLD of CONCRETE EUROPE '89
視察とヨーロッパの旅

ワールドオブコンクリートヨーロッパ'89正面ゲート

十一月六日、京谷専務と私はエールフランス二七五便にて定刻通り成田を離陸、一路パリへと旅立った。

今回の出張はスペインのバルセロナで開催される「ワールドオブ コンクリート'89」の視察、そしてフランス、スペイン、ポルトガル、イタリー、ベルギー各国の代理店の訪問が主目的であった。今回、紙面をお借りしてそのショーが開かれたスペインについて思うままに筆を執った次第である。

パリに二日間滞在の後、十一月八日マドリッド入りした。一般的にスペインを想像すると、ラテン系特有な明るく情熱的な国民性、フラメンコ、闘牛といったものが浮かんでくる。一九八六年一月一日のEC加盟。先進国の大企業がスペインの将来性に着目、この直接投資による収入は今や観光収入に近づく程の額となり、同国経済の発展に大きく寄与している。一九九二年にはバルセロナでのオリンピック、セビリアでは万国博覧会の開催、そして三つ目のイベントとしてこの年はコロンブスがアメリカ大陸を発見してから丁度五〇〇年となるところから五〇〇年祭が行われる予定で、スペインの国民感情はいやが上にも大きく高まって来ている。

マドリッドから弊社の代理店があるサラゴサ経由バルセロナに入ったのは十一月十日の昼近く、サラゴサからおよそ三〇〇キロ、車で約三時間の旅であった。この間外の景色は荒涼とした砂漠といった感じである。日本では都市と都市が隣り合い、切れ目なく続いている。このような全く人気のない風景にはまず接し得ない。パリでもロンドンでも、列車が走り出して十分もすると、もうそこには田園地帯が広がる。都市と農村は全く切り離された世界となっている。このような現実を捕らえると、我々日本人は如何に狭い国土に多くの人間がひしめきあっているかがはからずも理解できる。

バルセロナの小道で京谷専務
マドリッドの国立美術館で筆者

昼より今回の目的の一つであるコンクリートショーの会場へ向かった。仰々しい受付けを済ませ、会場に足を踏み入れたその正面に弊社アメリカの代理店であるMQ社が現地代理店とともにホワイトマンパワートロウエルを展示していた。取り敢えず挨拶を済ませ会場の中を見学となったが、昨年四月にミュンヘンで開催されたバーマ展と比べ、余りにも規模が小さく、どちらかというとローカル展示会といった具合である。出展約二六〇社、じっくり見て回り約二時間、我々の最大の競合相手であるドイツワッカー社も展示しておらず、気負って来たもののなんとなく気落ちした感じとなった。

翌日、再度訪問、見学の後、早々にバルセロナはアントニオ・ガウディに会える町である。某洋酒メーカーの宣伝で、日本におけるガウディの知名度は大きく高まった。皆様の中にもテレビの画面での強烈な印象がいまだに脳裏に焼き付いておられる方もいらっしゃるかと思います。その生き物を思わせる情感を漂わせた作品は、およそ我々凡人には到底計り知れないものがある。工事を開始して一〇〇年以上たった現在、まだその半分も完成していないサグラダ ファミリア聖堂。今のペースで建築を続け、順調に進んだとしてもあとゆうに二〇〇年はかかるとの事。まったく想像を絶するスケールである。見学にくる人々はその途方もない時間の感覚にただただ圧倒されるのみである。

古い町並みを歩いていると入口が半円形をしたロマネスク様式の教会、下町の薄暗い路地裏に豪商の館を発見したりする。歴史の重みは、我々旅行者に深い感動を与える。

この様に見知らぬ街では、視線は自然と建物に向いてしまう。ここで注意せねばならない事がある。バルセロナの趣のある下町の小道にはなぜか犬のフンが多く、又、上からはしずくが落ちて来る。両側の建物の窓からは洗濯物が軒先に張出している訳である。頭上と足元には十分気を付けましょう。

スペインの食事は特に遅い。朝食はどこでも同様に七時から八時に済ませる。問題は昼と夜である。昼食は二時頃スタートし、四時頃までかかる。我々出張者にとってこれが大変苦痛である。当然ながら日本人の食生活の習慣から、十二時過ぎにはお腹が空いてくる。従ってこの昼食はつい食べ過ぎてしまう。そうなると夜が又問題になる。少なくとも七時や八時では空腹感は起こらない。しかしながら日本人の習性としてその頃になると食事をとらねばと思う訳である。さてそれではとレストランへ足を運ぶのであるが、八時ではほとんどの店が準備中、もしくは数人のお客が居るだけである。レストランは十一時から十二時がピークとなる。良く食べ、良く飲む、バイタリティ溢れる人達である。このバイタリティーが今のスペインの活力となっているのかと感心した次第である。

EC加盟国の中で今一番脚光を浴びている国スペイン、愛される国である。

清水記

すもう茶話〈その1〉

語り手 長谷川 茂

さて何から話したらいいか急にはまとまらないが、まあ私と相撲との関わりから始めてみようか。幾回か連載ということならば今回は序の口、つまりプロローグということで順序もなしに思いつくまま気のむくままだが許していただきたい。

あれは五、六歳頃か祖父に連れられて大森の地方巡業へ行ったことをおぼろげに覚えている。海岸の砂浜に土俵が築かれており丸太とテントで周りを囲ってあり、何故か力士もお客もいない。土俵の真ん中に子供の砂遊びで作ったような砂山が盛られてそのてっぺんに弊束が立って海風に揺れている。そこへ行司が現れてうやうやしく拝礼し祝詞をあげはじめた。羽織ハカマの数人が神妙に頭を下げている。土俵の中央には御神体が埋められているので大変に神聖なものだと後で教えられた。私が幼い目で見てかすかな記憶に残っている大森海岸の風景は多分その神聖な神事儀式だったにちがいない。

私の祖父の本名は長谷川勘太郎だが相撲の呼び出しを務めるその美声は評判が高く、誰いうとなく〝呼び勘〟で通っていたという。また、呼び出しのほかに地方巡業や勧進相撲の先乗りとして興行師との折衝もしたらしく、そんなときには如何にもヤクザっぽく〝親分〟という呼び名で七十七才まで生きた。

この祖父の葬式の前夜のことも覚えている。昭和九年のことで私はもう十三・四になっていた。祖父の枕元に六・七人の男たちが円座を組んで泣き声を出したり涙を拭いたりしながら花札をひいているのだ。涙声で呟きながらばかっ花をひいている男もいる。「あれは爺ちゃんが可愛がっていた子分たちなんだよ。供養の花札会だよ」と母が教えてくれた。

この〝呼び勘〟こと長谷川勘太郎の自慢話のひとつに常陸山に頭を下げさせたというのがある。いつの事か判らないが興行の打合わせで何かカンに触ってヘソを曲げて子分をひきつれ家へ帰ってしまった祖父を、シルクハットで有名な常陸山が訪ねてきて頭を下げたというのだ。もっと話らしい話では新門辰五郎と祖父が兄弟分の盃をかわした仲だと聞かされたこともある。兄弟分の盃ではっきりしているのは本所割下水に住んでいた小島銀二郎という入入れ稼業の親方との深い付き合いだ。別名つたや銀二郎。その家のあった本所割下水の正確な場所は判らないが今の横網町あたりらしい。

祖父も本所相生町五丁目二九番地に来る前ご近所で、これは正式に盃をかわした深い仲で、子に恵まれなかった長谷川勘太郎と二男一女をもっていた小島銀二郎の間に養子縁組の話がとととのって、その第一条件は「この子は必ず堅気に育てること」だった。小島の次男が私の父になるというわけだが、約束どおり父はヤクザな世界から離され、新橋駅前の大きな洋服屋、東京で初めてのテーラーだという洋服屋へ丁稚奉公に出された。

大正九年に私が生まれた頃の父は子供靴の製造を営んでいたが、洋服屋の年期奉公を終えてからの父は大阪へとび出して道頓堀で洋服屋の呼び込みをやったり、東京へもどって洋傘屋をやったり新しい品物にばかり目をつけていた様だ。

やがてメッキ工場をはじめて私を工業学校に入れ、戦争とともに機械工場の建設へと手を広げたが大空襲で焼失した。

祖父の〝呼び勘〟は七歳の時から相撲の世界で〝つたや銀二郎〟と組んで触れ太鼓を打って回ったり奉納相撲の土俵や客席造りをやっていた。本所回向院の相撲では三階建ての丸太客席を組んだというが、これも小島銀二郎の子分たちが人海作業で一夜にして組み立てたのだと聞いている。

銀二郎の長男つまり私の父の兄は指を詰めていたし親に似て相当な度胸の持ち主だった様だ。両国界隈の各部屋を回って一番太鼓・二番太鼓と打って回るのも打ち手は祖父〝呼び勘〟の子分で、担ぎ手は銀二郎の子分たちが交替だったと聞く。

祖父は相撲の中にもうひとつ職場を持っていた。これは番頭にやらせていた「三河屋」という相撲茶屋だった。相撲茶屋は世襲制度の強い商売で、昔は八軒だけだったそうだが、丸屋根の古い国技館が生まれた頃二十軒にふえた。この時三河屋の株を売って新たに長谷川屋を設けたそうである。私の父は戦災で機械工場を失って仕方なく相撲の方へ顔を出すようになっていたから、堅気に生きる約束で事実その通りの父だったが仕事の方で仲間ができるとやはり血すじなのだろうバクチが好きで勝負強かった。気っ風のいい勝負師だったと今でも相撲茶屋の古老達から思い出話を聞かされることがある。

次回から相撲部屋の話やチャンコ鍋、後援会の話など聞いてもらうことにするが、平成二年初場所の話題は何といっても九州場所で優勝号泣した小錦だ。千代の富士とどうぶつかるか、力と技と精神の国技相撲の魅力はどんなに語っても尽きない。

新築記念展示会を開催
中道機械産業㈱恵那営業所

全国に販売網を広げる中道機械産業㈱さんでは、岐阜県東部の中心である恵那市に、かねてより建設中の新営業所を落成されたのを記念して、平成元年七月十六日㈯十七日㈰の両日にわたり、新社屋の披露をかねた展示会を華々しく開催されました。

新社屋は国道十九号線より車で五分ほどの所に位置し、東は恵那山、西には恵那峡、遠くは御嶽山を臨み、大変風光明媚な所にあります。又恵那地区は恵那テクノポリスの開発が着々と進んでおり、近い将来は工業の中心地になる可能性も含んでいる所です。

恵那営業所は全国で六十七番目の拠点になり、岐阜県では初めて、中部地区では三番目の営業拠点となり、中部地区での中道機械産業㈱さんの益々の活躍が期待されます。

展示会では本社より広瀬和雄第一営業本部長他本社、名古屋、三河各営業所よりの応援のローラー作戦により多数のお客様のご来場があり、特に十六日㈯にはあいにくの雨降りにも拘らず次から次へとお客様の入場がありました。イベントも各種催されて、長年お取り引き頂いているお客様の中よりオペレーター優秀者の表彰、ミニバックホーによるちびっ子オペレーターコンテスト、ローラーの講習会など盛りだくさんの企画により大盛況の展示会となりました。

又、最後に本社広瀬第一営業本部長により今回の恵那営業所の展示会を皮切りに、全国の営業所で展示会を企画中と、宣言がありました。

三笠建設機械㈱中部営業所　斉藤記

楢崎リース㈱
夕張出張所を開設

北海道に於ける三笠製品の有力な納入先である楢崎リース㈱さん（本社札幌市白石区厚別東五条八丁目―八―一　社長八木正徳氏）に於かれましては、昨年九月一日に夕張出張所（所長今田和雄氏）をオープンされました。

新出張所は夕張市の中心に位置しており、夕張市内はもとより日高、穂別地区の営業体制の充実を目指し、より一層、地元ユーザーさんに幅広くレンタル機をご利用頂けるものと思い又、今後活躍が期待されます。

出張所内のモータープールには三笠製品の振動ローラー、ランマー、高周波バイブレーターをはじめ、大小の機械が並べられ、同地域のユーザーさんに対し直ちにレンタル出来る体制を整えておられます。

又、今田所長をはじめ所員の皆様も活気に満ちあふれております。今後とも最大限の協力をさせて頂くと共に夕張出張所の皆様のより一層のご活躍と益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

楢崎リース株式会社夕張出張所
住　所　夕張市清水沢宮前町五番地
電　話　〇一二三五―九―五五二〇

札幌課　高橋記

第1回
『くらしと土木展』開催

土と木を分解するとそれぞれ十一と十八になる、ということで十一月十八日は「土木の日」である。これに因み関係各団体主催により各地でいろいろな行事が行われたが、埼玉県大宮市では埼玉土木施工管理技士会の主催、建設省をはじめ埼玉県各市町村などの共催により、十一月十八日㈯・十九日㈰の二日間、大宮第三公園予定地に於いて「くらしと土木展」が開催され、三笠産業も協賛メーカーとして主要製品の展示を行った。

このイベントは土木技術やそれに供する機械・機材などを展示し、土木業界の社会的役割を広く一般の人々に理解して頂くと共に、現在から未来へと日々進歩している土木技術・機械などを見てもらい、土木・建設業界への意識の高揚を図ることを目的としている。そのため、女性や子供達にも親しんでいただけるよう『遊ぼう地球　つくろう地球』をテーマに、夢トンネルと名付けたパネル展示やコンサート、お茶席、抽選会など楽しい企画が用意され、あいにくの風の強い日ではあったが、大勢の家族連れで賑わった。

このところ建設業は3Kあるいは6K（きつい、危険、汚い、給料が安い、休日が少ない、格好悪い）などといわれ、若者に人気のない業種の一つになってしまったが、このイベントが建設業のイメージアップに少しでもつながれば幸いである。

原田記

技術教室
No.37

ハンドカッターのエンジンが掛かりにくくて困っています。原因はどのような事が考えられますか。また、日常のメンテナンスはどのようなところに気を付けたら良いでしょうか。

長野の伊藤さんのご質問にお答えします。

ハンドカッターのエンジンは小型で高出力を得るため精密に作られており、各部の点検及びメンテナンスがしにくい様に見えますが、保守・点検を正確に行うことにより始動、操作などは簡単にできます。一般に始動不良の原因の多くは

一、リコイルスターターの引き過ぎによる燃料の吸込み過ぎ。
二、チョークの操作ミス。
三、エアークリーナーの目詰まり。

等が考えられますが、まず始動方法に付いて簡単にご説明致します。

一、ストップスイッチをＯＮにします。
二、チョーク操作ツマミを右に90度回します。（ツマミが横向きになります）
三、セフティーレバーを押え、スロットルレバーを引いてプッシュピンを押し込んでスロットルをロックします。（セフティーレバーを押えないとスロットルレバーは引けません）
四、右足でリアハンドル下部を押え、スターターハンドルを引きます、数回引いて爆発音がしたらチョーク操作ツマミを元に戻し、更にリコイルスターターを引きますと始動します。スロットルレバーを少し引いて離しますとエンジンはアイドリング状態となります。

エンジンが暖まっている場合はチョーク操作ツマミはそのままで始動して下さい。

次に始動困難な原因と対策をご説明しますと

一、燃料の吸込み過ぎ
チョークをしたままでリコイルスターターを必要以上に引きますと、燃料がシリンダー及びクランクケースに大量に流れ込み、エンジンは始動しません。その場合はシリンダー及びクランクケース内の燃料を完全に除去する必要があります。点火栓を外し、チョーク操作をしないでリコイルスターターを数回引き、点火栓より燃料を排出します。

点火栓を取付けて通常通りの手順で始動して下さい。

二、クリーナーの目詰まり
エアークリーナーの目詰まりは気化器不調の原因となり、やはり始動がしにくくなります。また、始動しても回転が上がらないといった状態になります。目詰まりの場合はクリーナーキャップを外し、スポンジ及びエレメントを取り出しガソリンまたは洗浄油で洗い、良く乾燥させてから、スポンジは二サイクル専用オイルに浸し、良く絞り、エレメントは混合油に浸し良く振ってから組み込み使用して下さい。

その他にも始動困難の原因としては

一、電気系統
・一次線コネクターの接続不良
・電子点火ユニットの不良
・点火コイルの不良
・点火プラグの不良
二、燃料系統
・チョークの操作ミス
・燃料フィルターの目詰まり
・燃料パイプの折れまたはピンホールの発生
・気化器パルス圧の漏れ
・気化器の調整不良
・気化器内部のゴミ詰まり
・燃料が古く変質しているか或いは混合比が不適合等燃料が悪い

などが考えられます。詳細については取扱い説明書を良くお読みになって三笠ハンドカッターを末永くご愛用下さい。